

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性評価システム (建築環境総合性評価システム) 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)S2計画	階数	地上19F/地下1F
建設地	名古屋市中区新栄町二丁目1番、2番、13番、14番及び15番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、飲食店	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2026年2月9日
敷地面積	3,419 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,235 m <sup>2</sup>	確認日	2026年2月9日
延床面積	40,141 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値  
②建築物の取組み  
③上記+②以外のオンサイト手法  
④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア=3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア=4.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア=3.1

**LR のスコア = 4.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア=4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=4.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>街並み配慮, 広小路通の賑わい創出</li> <li>歩道状空地, 広場状空地, ビロイによる地域貢献</li> <li>建物外皮の熱負荷抑制, 設備システムの高効率化</li> <li>制振構造, BCP対応(緊急排水槽, 非常用発電機)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>吸音材(タイル・ベツト, DR)</li> <li>空調ゾーン(40m<sup>2</sup>毎), 冷暖同時, 加湿除湿機能</li> <li>ブラインド, 照明制御(テス1列毎)</li> <li>給排気口別方向かつ離隔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>階高/天井高/積載荷重, 制振構造</li> <li>コネク/機能の明確化を伴う内装/照明計画, パリファリ</li> <li>維持管理に配慮(防汚性高い内装, 各トリス, コントラ)</li> <li>BCP対応設備(緊急排水槽, 非常用発電機)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>街並み配慮, 広小路通の賑わい創出</li> <li>歩道状空地, 広場状空地, ビロイによる地域貢献</li> <li>外構緑化による生物環境の創出/景観形成</li> <li>敷地内温熱環境の向上(日陰形成, 排熱放出10m以上)</li> </ul>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>建物外皮の熱負荷抑制(BPI0.80)</li> <li>設備システムの高効率化(BE10.50)</li> <li>効率的運用(基本BEMS, 拡張BEMS)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水(自動水栓, 節水型便器), 雨水利用</li> <li>リサイクル材の使用(ビニルシート, 磁器質タイル, 再生木デッキ)</li> <li>有害物質を含まない材料の使用(シーリング, 塗膜防水)</li> <li>フロアパットの使用回避(不活性ガス消火剤, ノフロ断熱材)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率の低減</li> <li>駐輪場, 駐車場, 荷捌き駐車場, 車両出入口配慮</li> <li>光害抑制</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)S2計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.4</b>
LR1	エネルギー	4.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>4.2</b>
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



#### 2. 自然共生

評価点 = 2.3



#### 3. 循環型社会

評価点 = 4.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。